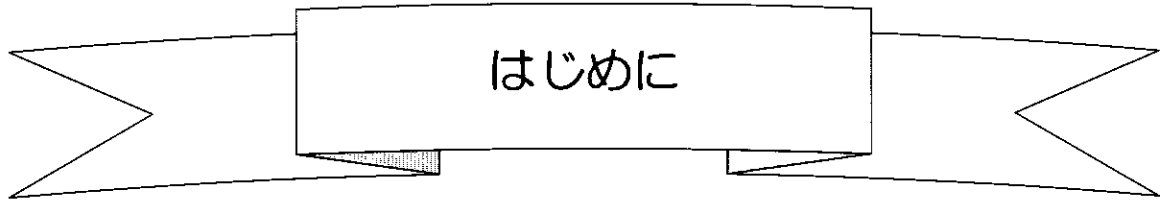


子どもたちへのメッセージ集 2007

～ 命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ ～





へいせい ねん がつ にち はんしん あわじ だいしんさい
平成7年1月17日、阪神・淡路大震災があり、

おお かた な いえ うしな
多くの方が亡くなり、家を失いました。

だいさいがい けいけん かた いのち たいせつ
その大災害を経験された方たちから、命の大切さ

しんさい まな こ つた
や震災から学んだことを子どもたちに伝えるために

よ の
寄せられたメッセージを載せています。

よ
みなさん、ぜひ読んでみてください。

子どもたちへのメッセージ集 2007

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

も く じ

☒ 子どもたちへのメッセージ (24通)

命の大切さ	1ページ
さまざまな体験	8ページ
体験から学んだこと	16ページ
感謝の気持ち	22ページ
災害への備え	25ページ

※ 内容によってテーマ分類しています。

※ 経験や思いを尊重してお伝えするため、誤字・脱字を除き、
メッセージを原文どおり掲載しています。

☒ メ モ 28ページ

☒ 子どもたちからの感想文 (3通) 29ページ

☒ しあわせ運べるように 33ページ

☒ さいごに

子どもたちへのメッセージ運動の概要 34ページ

☒ 阪神・淡路大震災関連資料 35ページ

※ 阪神・淡路大震災関連資料は、震災10年～神戸の記録～（平成16年10月
神戸市広報課発行）と「阪神・淡路大震災被災状況及び復興への取り組み状況」

（平成19年1月1日現在）によるものです。

命の大切さ

子どもたちへ



じしんがきたら でんきがありません
じしんがきたら ガスもありません
じしんがきたら おみずもありません
じしんがきたら たべものもありません

まっくらなところで とてもさむいところで がまんをしながら
おみずをくみました。 たべものは なにもなかったのが
がまんしました。 いつでもにげられるように ねるときも
ふくをきてねました。 おふるもはいれません。

でも かみさまが こういったのです。

いのちがあるよ いきているよ。

だからみんなで ちからをあわせてがんばりました。

さむいことも おなかがすくことも いたいことも

がんばってこれました。 かぞくやおともだちや どうぶつたちが
たがいに はげましあっていきってきたのです。

なかには しんでしまったひともいます。

そのひとたちのぶんも がんばっていきいこうと

こうべのひとたちは ちかいあったのです。

こうち きょうこ



子どもたちへ

12年前、あなたはまたこの世には生まれていませんでした。春になってあなたのおかげから、会えるのを楽しみにお母さんのお腹の中でおくと育っていたところにあの恐ろしい地震がやってきたのです。大きな揺れと家の中のものがガチャガチャ壊れる音におびえながら、お腹の中の7ヶ月のあなたには「大丈夫だよ、大丈夫だよ」と声をかけ必死に守りました。幸い家の中の物が少し壊れたり落ちたりはしただけで、お腹の中のあなたも「大丈夫よ」と教えてくれたかのようにお腹を蹴ってくれ、元気な子とわわわはまりました。たくさんの命が失われました。おじいちゃんや、おばあちゃんそれに、看護師であるお母さんが働いている病院の患者さん達、皆無事ということを知り安心しました。今年あなたは12才になります。震災といふよに命を重んじています。あの日、たくさんのかけがえのない命がなくなりました。あなたと同じように学校へ行くと、友達といっしょに遊んで、おと生きながら子どもたちがたくさんいたはずです。今、世の中はおかしくなっています。友達をいじめて死なせてしまったり、親が子を、子が親を傷つけて死なせてしまったり...。つらい命もつと大切にしてください。今日、元気に学校へ行けること、ごはんが食べられること、友達とたえること、あたたかいお風呂に入れること、今生きていることは、いっしょに、いっしょに感謝して下さい。そして亡くなられた方へ命まで毎日毎日大切に生きて下さい。最後に、地震と乗り替え、元気に生まれてきてくれてありがとうございます。



H19年 1月 18日

お名前 米倉 敬子 より ※

※ この欄は公開しますので、とく名希望の場合はペンネームまたは無記名でお願いします。

No. 133

『子どもたちへのメッセージ』

～ わたし 愛を感じています ～

わたし人間の温もりを知りました…… 言葉には出来ない人間の温もりを
わたし人間の命の尊さを知りました…… かけがえのない人間の命の尊さを
わたし人間の真心を知りました…… お金では買えない人間の真心を
わたし自分の本当の姿を知りました…… やりきれない自分の本当の姿を

暗い場所からやっとのおもいで

ようやく外に出られたのです

冷たい部屋からやっとのおもいで

ようやく外に出られたのです

だからわたし愛を感じています

偽りのない確かな愛を

わたし愛を感じています

お金よりも大切な人間の愛を

2006. 5. 3.

堀絵 隆文

子どもたちへ

早いものであれからもう12年という月日がたとうとしています。あの時にほんの小さな赤ちゃんだったあなた達がもうすぐ小学校を卒業しようとしているのですからあなた達は知らないでしょうけれど伝えていかないといけないことがあります。

きっといろんな形で何度も聞いたことでしょう。でも平成七年一月十七日、まだ夜も明けない早朝、一瞬の間にたくさんの人達が大切な家をなくしてしまったのです。

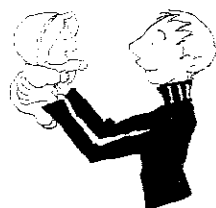
あなた達もこれから泣きたいことやつらいこと、時には死んでしまうくらいイヤなこともあるでしょう。でも忘れないでください。私達多くの大人は小さなあなた達を守ろうと一生けんめいだったのです。

長い人生の中では、楽しいことやうれしいことよりも苦しいことやつらいことの方がきっと多くあると思います。それでも、一瞬にして自分の命や大切な人を失ったたくさんの方の分もあなた達は強くたくましく生きていかなければなりません。

そしていつかあなた達が親となった時、自分の子ども達に自分があの震災をくぐりぬけて大きくなってきたのだと、きっと話してあげてくださいね。

そして私達がしてきたように、あなた達も又、小さな命を一生けんめい守ってください。

生きてゆくことの喜びと生命の大切さを忘れないでね。



和也の母

命の大切さ

子どもたちへ

ドゴオゴオゴオゴオ----という訳の分からない音がした。立っていら
れないものすごい状況の中、母が私の名前を大声で呼びながら這って
きた。母はとりあえず逃げ道を確保するために玄関のドアを10cmばかり
開けた。

外はパジャマに裸足という人々でいっぱいだった。そんな中、私はと
りあえず、お手洗いに行った。もう行けないかもしれないと思ったのだ
が、今思えばこれが一番にしなければならなかったことか？と思う。

電気もガスも水道もすべて止まり電話も使えない。それなのになぜか
一本だけ電話がなった。広島の友人からだった。その電話で神戸が大変な
ことになっていると知った。私の家は半壊という状態でその後も自宅
で過ごせた。

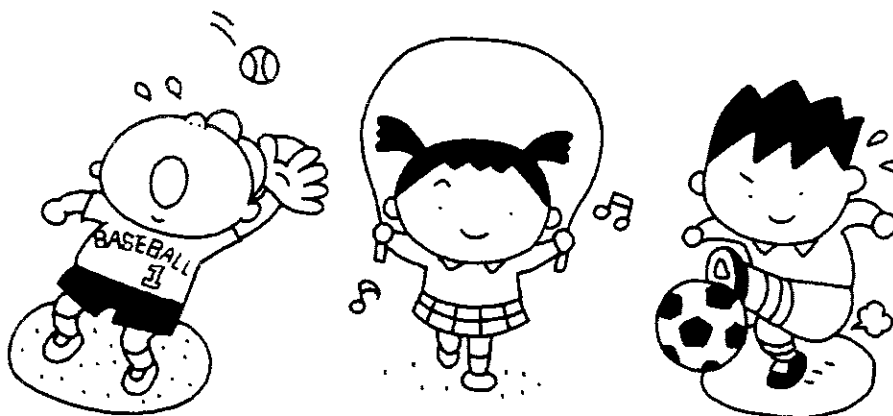
それから数日後、岡山の自衛隊の方々が給水車でやってきてくれた。
しかし残念ながら丁度私の前でなくなってしまった。岡山からわざわざ
きてくれたのに、何度も何度もごめんね、ごめんねとあやまるその眼鏡の
優しい顔は今でもはっきりと覚えている。

今思うとお水をどうするか、お水を確保できたかのご近所や友人と声をかけあう毎日だった。毎日毎日、今日は無事に過ごせたか、欲しいものはないかと連絡をくれる友人。こんな友人をもったことが幸せだった。

命があれば何とかなる、何でもできる。命があることがとても有難いと思う毎日だった。11年たった今、どんどん贅沢な気持ちが大きくなっている。前を向いて希望を持って歩くことは良いけれど、あのときの感謝の気持ち。当たり前になってきてはいないかと、今、反省する。

平成19年1月30日

木津 よしみ



命の大切さ

子どもたちへ

「命のバトン」5年生の君たちへ

彼女はとっても明るく知的で誰からも慕われ、愛されていた女性でした。彼女は学生時代から夢と希望に満ち溢れ、仲間の中でも、とても有望なとびきりの友達でした。しかし無情にも私達夫婦のかけがえのない友達の命を神様は奪っていったのです。

私は地震後、何とか彼女の家までたどり着きましたが、お家は姿形もありませんでした。近くで呆然とたたずんでいるおばさんに「このつぶれたお家の娘さん知らないか？」と尋ねると「亡くなったかも知れないよ」と言われました。彼女は区役所地下の冷たい床の上で永遠の眠りについていました。その4ヵ月後、私たちに息子が誕生しました。その息子ももう11才、5年生です。きっと私の息子や他の5年生のお友達は彼女やあの地震で亡くなった人々に「命のバトン」を託されたのだと思います。

志半ば、夢半ばで命を終えなければならなかった人々…。何の落ち度もない人々が命を落とさなければならなかった運命…。その人たちのためにも君たち5年生は生き生きと生き抜かなければならないのだと思います。「命のバトン」を渡された君達は、きっと幸せになれるだろうし、それ以上に幸せにならねばならないと思うのです。「命の尊さ」を礎に、明るく楽しく育ててほしいと願ってやみません。

H19年1月30日



5年生の息子をもつおとうさん

Since then

はいきょ か まろな るじょう た すく
廃墟と化した街並みを路上に立ち竦んで

ぼうぜん み ころ わたし
呆然と見つめていたあの頃の私

まち かな み ひ できごと
街が悲しみに満ちていたあの日の出来事

くず した たす もと さけ こえ
崩れたビルの下から助けを求めて叫んでいた声に

みみ とき わたし
耳をふさいでいたあの時の私

なに じぶん くや
何もできなかった自分がたまらないほど悔しかった

じかん す けっ わす さ
時間が過ぎても決して忘れ去ることのできない

ひ こうけい いま わたし お
そんなあの日の光景が今でも私を追いかけてくる

なに じぶん ゆる
何もできなかった自分を許すことも

ときうしな いのち もと
あの時失われた命をとり戻すこともできはしない

なまり こころ いま わたし い つづ
鉛のような心のままで今も私は生き続けている

May 2006

Message by Mariko

子どもたちへ

あの日、あの時私は枕元の本箱を押えていました。上から本がバラバラと落ちてきました。ファンヒーターのデジタル時計がふっと消えました。これが長い1日の始まりでした。

あなたは前日から風邪をひき、熱を出していましたね。地震のショックと重なったのでしょうか。ひきつけを起し、父と母はとても心配しました。わずか2歳半の小さな身体が熱くぶるぶるとけいれんをしているのを母はただ抱きしめるばかりでした。不思議な事に垂水区は地震による被害は比較的軽く小児科が開くのももどかしく飛び込んだものでした。父はあなたの容態が心配でしたが、仕事の為に職場に向かいました。そこで見た光景は後にあなたも写真集で見たこともあるでしょうが実に悲惨なものでした。天災は万人に平等に降りかかると言いますが、神戸は大丈夫だという根拠もない思い込みが間違っていたと思い知らされました。幸にしてあなたの熱以外は我家の被害は少なく、他の方からの支援を受けることもなかったのですが、社宅のつながり、父さん母さんの友人達のつながりを十分すぎる程感じた災害でした。あれから12年がたちます。将来もし異変が起きたら、家族、友人、社会に何でも良いから役立つことのできる人になることを祈っています。

平成19年1月8日

若木 康博

子どもたちへ

また今年も、あの阪神淡路大震災の追悼の日がやってきます。今年で12年目を迎えるんですね。あっという間の12年間だったと思います。あっという間と言ってもこの間に神戸の人々は色々な思いと努力があったと思われます。

12年前の早朝、私は20才になって成人式を迎えたばかりでした。信じられないくらい家がゆれて、一瞬で真っ暗になって「いつ止まるの？」という事ばかり考えてました。ゆれが終わった後は信じられない光景でした。足の踏み場もなくガラスで足を切り鼻からは血が流れてて、まず家族の声がきこえました。うちの家族はおかげ様で全員無事でした。ケガをしたのも私だけでした。その後だんだん日がのぼって明るくなってきて家の全部を見渡す事が出来た時、本当に悲しい気持ちになったのを今でもはっきり覚えてます。一瞬にして神戸は変わってしまいました。いつも見てる街は全部壊れてしまいました。「私達が何をしたんやろ？」と言葉に出してしまったのも覚えてます。その後は水も電気もガスも食料もなく、寒さで悲しいのとトイレもまともに行けなくて悲しいのと色々な事がおしよせて来ました。でもその時に私達家族に隣のおばちゃんが残ってるお米でごはんを炊き、おにぎりを食べさせてくれたのは今でも忘れられません。色々な人に親切にされて思いやりにふれる事ができたのもこの大震災でした。この思いを忘れずに私達の子供、そのまたずっと先も受けついでいかないといけないと思っっています。

H19年1月9日



2人のママ

さまざまな体験

子どもたちへ

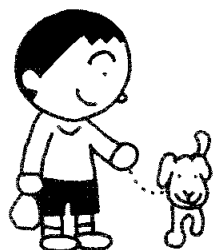
べんりなまいにちがとつぜんなくなるということが、いまの子どもたちに信じられますか？すいどうのじゃぐちをひねればみずがでて、すいっちをおせばでんきがつく。あたりまえのことがとつぜんじしんのせいであたりまえでなくなるということをわたしはたいけんしました。

5じ46ぶん、じしんがおき、あたりはまっくらになりました。さいわいわたしのそばにはははがいたので、ふたりでいれたのはこころづよくおもえました。どれくらいのじかんがたったのかは、とけいがみえないし、うでどけいがないからわかりませんが、ちちがしごとからかえってきました。ふたりでいっしょけんめいよんでも、くずれたいえのそとにこえがとどきません。でもなんとかそとにでれ、マンションのひとにじかんをきけば8じ10ぶん。やく2じかん、いえからでれなかったわけです。

まいにちくらすいえからでかけるのに2じかんもかかることはいじょうですよね。でも、いつ、いじょうじたいがおきるのか、わからないのがげんじつです。

2006年9月

うの ますみ



子どもたちへ

いまでも忘れられない、平成7年1月17日早朝。まだ、学生だった自分。

神戸市灘区の阪神新在家駅に住んでいました。

自分の部屋で、姉と二人で寝ていました。

風邪（インフルエンザ）をひいて、ぐっすり寝ていた私は、姉に「家が大変!!くしゃくしゃ、早く起きて」と言われ目をこすりながら周りを見渡すと、開いているはずのない窓があいており、自分の部屋はテレビがひっくり返って机もくしゃくしゃでした。慌てて他の部屋を見に行くと冷蔵庫、テーブル、タンスが倒れてて、両親の部屋まで行くことが出来ませんでした。「お母さん!!お父さん!!お兄ちゃん!!」と叫びました。すると奥の部屋からお父さんが「お母さんが仏壇の下敷きや」と自分一人で仏壇をおこしてお母さんを助けました。運よく無傷でした。その後、父が真っ暗な中、ローソクに火をつけ玄関のほうに行き、ドアを開けようとなりました。ドアがくしゃっとなって開きません。思いっきりけって、何回かするとドアが開き外に出ました。それはそれは、家が倒れ周りは火事でした。

ここから我が家出動!!家の下敷きになってる方を助けました。火がせまってくる中、女性を助ける事が出来ました。たくさんのお友達亡くしたけど、一人でも救えた事がうれしかったです。もう地震は二度とおきて欲しくないです。

18年12月10日



さまざまな体験

子どもたちへ

1月15日はおばあちゃんちにかえって成人式^{せいじんしき}にでていて、16日に、ひとりぐらしをしているあまがさきにもどりました。そのよる（もうあさだけど）のことです。いまでもおもいだそうとするだけでなみだがでてきます。

わたしはひとりでゆれるへやにいました。ロフトベッドから、たおれるかがみやブランコのようにゆれるでんき^{でんき}を見ながら、「このアパートはこわれるかもしれない、こわれませんように…」とおもっていました。

ゆれがとまると外^{そと}にでて、それまではなしたこともない、となりのへやのひとのくるまにひなんさせてもらいました。そのあとも、たべものをわけてもらったり、とてもしんせつにしてくれました。

じしんがあったそのあさ、さいしょはテレビがついたので、こわれたこうそくどうろや、かじのようすはわかりましたが、すぐにテレビはうつらなくなり、しばらくするとみずもでなくなりました。けいたいでんわはまだもっていません。

わたしには、ちかくにたよれる人^{ひと}もいないので、おなじがっこうにかよっていたともだちといっしょに、おばあちゃんちにかえることにしました。

でも、せんろもこわれてしまったので、とおまわりして、いつもは2

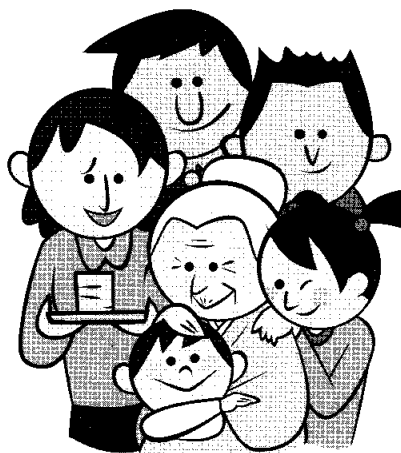
じかんなのに、5じかんくらいかけて、おばあちゃんちについたときは、ほっとしてかぞくがみんなどれくらいしんぱいしてくれていたかをしりました。

まだパパとであうまえのできごとです。パパはこうべでじしんにあい、いえははんぶんこわれました。パパはともだちやかいしゃの^{ひと}人に^{みず}水をたくさんおくってもらったそうです。パパはけんちくのしごとをしているので、こわれそうないえをしらべるボランティアもしました。よしんがくるたびにこわくてたいへんだったそうです。

ルミナリエにいくと、ただきれいなだけじゃなくて、たくさんのが^な亡くなったことを^{おも}想い、なみだがでそうになります。いまでもじしんのこわさはおぼえています。いまは、ひとりじゃないので、パパとママでどうやってこどもたちをまもろうか、ときどきはなしをしています。

(おばあちゃんはわたしにとってはおかあさんであり、おばあちゃんち^{じっか}は実家です。)

平成 19 年 1 月 16 日



さまざまな体験

子どもたちへ

ゆっくりゆっくりと大きくゆさぶられて目を覚ましました。ビルの8階に寝ていたわたしは、すぐに地震だとわかり、ゆれがおさまるのをふとんの中でまっていた。だんだんとゆれは大きくなり、すごいきおいでビル全体が上下につきあげられ、ついていた電気が消え、まわりの家具がたおれだし、わたしは、頭をかかえて「うわー」とさげんでいました。ビルがつぶれそうになっているのがわかり、天井が落ちると思い、もうダメかと思ったのです。ゆれがおさまり、くらやみの中をわたしはドアへおかってテレビやれいぞうこの上をこえていきました。カギをあけてもドアはひらきません。ドアがゆがんであかないのです。たいあたりでやっとおもてへ出ると、ひじょうかいだんで、1階におり、はだしでガラス片の上を走って広場へおかいました。とちゅう、いつも見ているほかのビルがよこだおしになっているのを見ました。きがどうてんしていたわたしは、Tシャツにはだしというかっこうで、1月という寒いときでしたから、さむさときょうふに体がふるえていたのをおぼえています。ひろばのまわりはビルがたちならび、くらやみの中、どこからか「たすけてー」とさけびごえがきこえてきます。なにもできないわたしはなみだまじりに「だいじょうぶか」とさけびかえすのがやっとなりました。やがて夜があけるにつれいろんなことがわかり、神戸をちゅうしんに大地震があったこと、たくさん死んだ人がいること、まちがもえていること、それはまるでじごくのようでした…人はすぐにわすれてしまう生き物ですが、父さん母さんや、愛することも、恋人をうしなった人たちが今もがんばっているということを忘れてはいけません。

平成19年1月16日

子どもたちへ

今、こどもをおそう事件がおきて、君たちはだれでも

おとなを信じちゃいけないと教えられているだろう。

でも、12年前の君たちが生まれていないときにおきた大きなじしん

のときは、みんながたすけあってのりこえてきたんだ。

たすけあうということは、たすけられる人も、たすける人も、みんなの心をほっこりさせてくれるんだ。

そのことを忘れてほしくないんだよ。

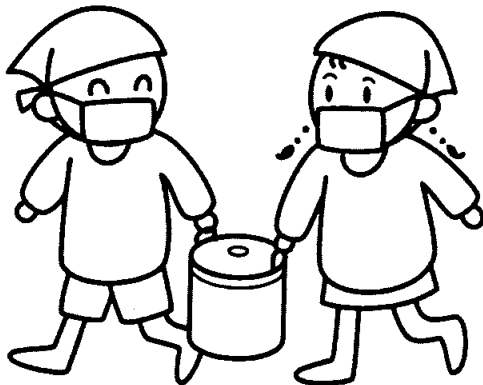
君たちも、毎日の学校生活の中で、友だちとたすけあいをして、心を

ほっこりさせてほしいんだよ。

ぼくたちおとなも努力するからね。

2007年1月1日

たかぎ あさお



体験から学んだこと



子どもたちへ

しゅん太へ

いま、小学1年生のあなたたちは、「はんしんあわじだいしんさい」というとても大きなじしんがこうべにおこったことを知らないよね。

12年まえ、その大きなじしんで、家がこわれて、たくさんの人がしんだんだよ。

6せん4ひゃく3じゅう4にん。しおや小学校の子どもたちがぜんぶでだいたい600人だとしたら、その10ばいの人^{ひと}がしんだなんてしんじられる？こうべでほんまにあったことなんやで。

しんだ人^{ひと}の中^{なか}には小学生^{しょうがくせい}もいたんよ。

「またあしたあそぼうな」ってやくそくした友だち^{とも}がいなくなったらどうおもう？

ママはじぶんの子^こどもがしんだりしたら、じぶんがしぬことよりもこわいし、かなしい。かんがえたくない。

あなたたちのまわりの人たち、お父さん、お母さん、先生、友だち、いろんな人^{ひと}、たくさんの人^{ひと}があなたのことをだいじにおもってるんだよ。だいじだから、ろうるさくすぐおこったりしてしまうけどね。

「はんしんあわじだいしんさい」をおもい出す^たことは、わたしにとってはいのちが1ばんだいじだということ^{だい}をかくにんすることです。

だいしんさいのことをいっしょにおぼえていてください。

いのちがだいじだということ^{だい}をいつもおぼえていてください。

H19年1月17日

しゅん太のママ

子どもたちへ

「いつでも水が飲める」「明るい電気の下で温かいごはんが食べられる」「寒ければストーブやエアコンで身体を暖められる」、そんな暮らし、当たり前のように思っていませんか？11年前、当たり前前に思っていたその暮らしが一瞬にして消えました。

水道管は壊れ、空のペットボトルを持って給水車を探す日々、電線も切れ、ろうそくの明かりで夜を過ごし、寒さには服を着込む以外対応できませんでした。ろうそくに火を灯す時でさえ、近くのガス管破裂のガスの臭いがしないか、爆発しないかヒヤヒヤしながら生活していました。

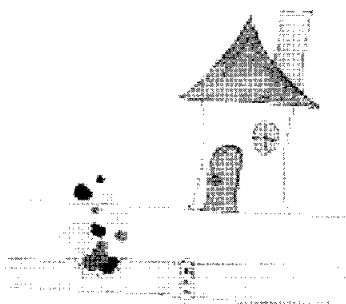
家の中の戸棚は倒れ、ガラスは飛び散り、「ここに寝ていたら家族は亡くなっていただろう。」という事態でしたが、私の家族は無事でした。

しかし、この震災で多くの人が命を失い、家族を失い、家を失いました。

この震災に学ぶべき事はたくさんあります。皆さん、今一度「命の大切さ」「当たり前のように思っている今の暮らしの有難さ」を見つめ直してみてください。

平成 18 年 12 月 28 日

西村 順子



体験から学んだこと

子どもたちへ

仕事として写真を撮っている私は被災地を、カメラを持って歩きました。震災の悲惨な状況を写真として残しておこうと思ったからです。

でも1枚もシャッターを切る事はできません。よく知る町並みの変わり果てた姿、それを目の当たりにして涙が止まらず、ファインダーを覗く事すらできなかつたのです。いつしかカメラは置き、みんなと一緒に、生き埋めになっている人達を助けようと必死になっていました。そんな時です、テレビカメラが僕達の様子を写しています、「この状況でカメラを構えられるなんてどんな神経をしているんだろう。」とつぶやいた時、一緒に瓦礫を掘っていた人が「お前ら何撮っとるんじゃ。」とカメラマンに食って掛かりカメラをはたき落としました。カメラを放したそのカメラマンの目は赤く充血し涙があふれていたのです、彼らも、辛くて辛くて仕方なかったのでしょうか、それでもカメラを構えなければならぬんです、多くの人にこの悲惨な状況を伝え、知ってもらうのが彼らの役目、きっと彼も一緒になって土をどかせたかったでしょう、でも、彼がカメラを回さなければこの悲惨な神戸を世間に伝えられないんです。

どんなに辛くても仕事として撮らなければならない、そんなとても辛い立場のカメラマンもいるんです、食って掛かった人も、充血し腫上がった目を見て「兄ちゃんもつらいんやな、…仕事頑張ってやあ。」カメラマンは小さくうなずき、またカメラを構えました、その時の小さく震える彼の肩の事を良く覚えています。

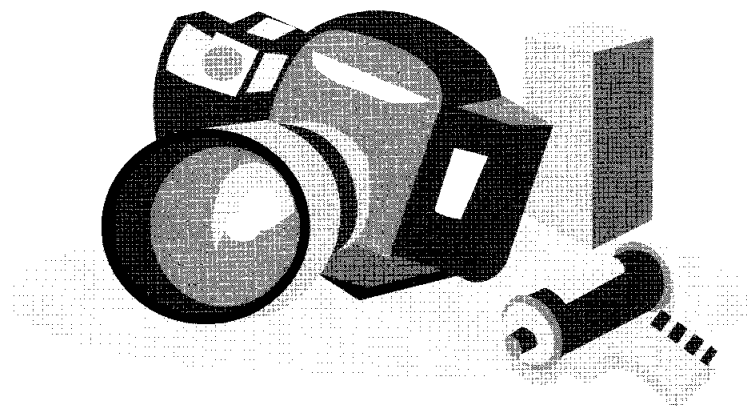
人には色々な立場があります、自分は何故撮れなかったのか、何故
写真家を目指したのか、それを考え、思い出しました「素敵な家族写真
を撮りたい。」だから写真家の道を選んでいたんです「小さくてもいい、
幸せを撮ろう、それが僕の立場なんだから。」と再確認をしたんです。

私にとって震災はとても悲しい記憶です、今もこの文章を書きな
がら涙が止まりません、でも、あの震災が自分の歩くべき道をはっき
りと示してくれました。震災がぼくにはっきりと自分に与えられた
立場を教えてくださいました。

そして、人の命を救おうと必死になる人の本音と、助け合うやさし
さ、暖かさ、震災は僕にとって悲しい記憶であり、また、人の暖か
さを教えてもらった、とても大切な出来事です。

平成 19 年 1 月 26 日

スタジオ・チーズ代表 酒本 和範



体験から学んだこと

子どもたちへ

「あきらめない」

が
夕かろも！

神戸が
教えて
くれました

だから「今」がアイル



18年 12月 5日

お名前 _____ Hee _____ より ※

※ この欄は公開しますので、とく名希望の場合はペンネームまたは無記名でお願いします。

No. 139

子どもたちへ

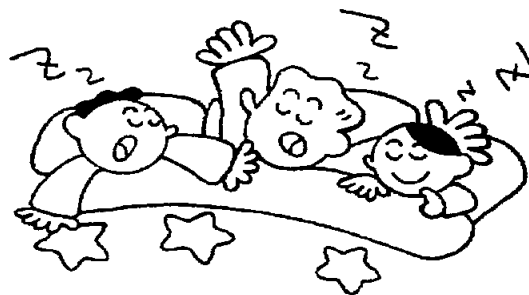
当時まだこの世に存在していなかった小さな小さな命がもう立派な5年生。親より友達が大事になってきて、学校から帰るとランドセルを置いて飛び出し、門限ギリギリまで帰って来ないし、帰れば帰ったで「イヤ」「でも」「だって」と反抗ばかり。つつい大きい声でケンカをしてしまい、眠った顔を見て反省の毎日です。

でも11年前産れて来てくれた時の安堵と感激は忘れる事はありません。突き上げる様な揺れの中、上の子をお腹の下にかばい抱えた時。寒い車の中、余震に怯えながら夜を明かした時。車で実家までの長い長い移動の時。「ごめんネ、もう少し我慢してネ」と何度もお腹に語りかけていた時の不安から開放された瞬間でした。地震が無ければこんな思いはしなかったのに。でも地震があったから人の優しさ、思いやり、そして何より非力な子供達への愛しい思いを誰よりも感じる事が出来ました。

悲しい事件の多い今、震災産まれの子供達にも当時の親の気持ちや、周りの方の優しい気持ちを感じ取ってもらい優しい人に育ってほしいと祈る毎日です。

H18年12月3日

こうじ&まりママ



子どもたちへ

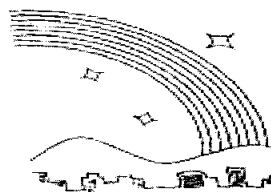
12ねんまえのじしんの日、あまりにもいっしゅんのできごとで何が
おこったのかわからず、ゆれがおさまってから“これはじしん？”と思
いました。そしてきゅうにととてもこわくなりました。それほどにあの日
のじしんはドーンというおとと、とてつもなくすごいゆれでした。そ
のときわたしはまだけっこんもしていなかったものでひとりであらして
いました。ひとりはとてもさみしく、こころぼそかったです。

あのときほどひとりがさみしいとおもったことはなかったです。あの
日、そとにでた時、こうべのまちがあまりにもかわりはてていてこれ
からこうべはどうなるんだろう、とおもいととてもかなしかったけれど、
あれから12ねん今、こうべのまちはみちがえるほどたちなおっていま
す。こうべのまちの人たちや、いろんな人たちのおかげでここまでた
ちなおることができたんだとおもいます。でも、あの日、たいせつな人
をうしなった人や大きなけがをした人がいることわたしたちはずっと
これからもわすれてはいけないとおもいます。

あの日のじしんでわたしがけがもしないでいるから今、あなたのお
母さんになれたんだとおもうと本当に今、こうしてげんきでいられる
ことにかんしゃしたいとおもいます。

平成19年1月18日

たなか りか

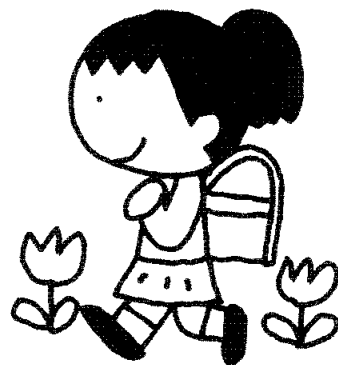


子どもたちへ

平成7年1月17日未明、澄んだ空には明るい月が残っていました。その静かな私たちの街を、突然大地震が襲いました。寝床の下から突き上げるような衝撃と揺れがしばらくつづき「ダンス」の倒れる鈍い音や、水屋が倒れて「コップ」や茶碗が割れたり、棚から物が落ちる音など、不気味と恐怖の時間でした。幸い私たちは無事でしたが、別の店は全壊となり、片付けが大変でした。一瞬の出来事で生活に必要な「電気、ガス、水道」が止まり、不自由な「着の身着の儘」の日が何日かつづきました。

そんな時被災地外の皆さんから助け合いの炊き出しの援助があり、寒い時期ですので熱い食べ物は何とも心の底から温まる想いがしました。また給水車からの水を貰って運んでいると顔も名前も知らない高校生くらいの人が「おじさん持ってあげる」と玄関まで運んでくれて笑顔で「さよなら」と立去りました。私にはその人の後姿が素晴らしく輝いて見えました。私たちは皆綺麗な心を持っている筈です。せめて人に迷惑をかけないようにすることが大切だと私は思います。「おはよう、こんにちは、ありがとう」が素直に云えて、思いやりと感謝の気持ちで毎日を過ごせたらと、心から願っています。

18年12月22日



葺合福寿会 小林雄郎

災害への備え

子どもたちへ

家庭における防災対策

平成7年(1995)1月17日午前5時46分いきなり下から突き上げるような揺れで飛び起きました。活断層がずれて起きた直下型地震でした。垂水区に住んでいましたが、幸いにもプレハブの簡易鉄筋の建物でしたのでダンスも倒れず、家族は無事でした。しかし、鉄道、高速道路などの交通網をはじめ、電気、ガス、水道など生活に関係するライフラインがズタズタとなりました。避難して身を守ることが困難な老人、子供に犠牲が多くでした。災害から身を守るため次のようなことが大切です。

ダンスや食器棚には転倒防止の用具をつけること

たかい場所には物を置かない

懐中電灯はわかる場所に置く

玄関に非常持ち出し用の袋を置く

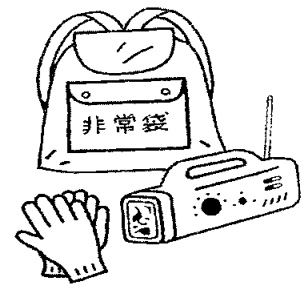
非常食や飲料水の備蓄

救急医薬品の用意

全国中継のFMラジオの用意

災害時に家族が落ち合う場所を決める

いずれも言い古されたことですが、同時に「向こう三軒両隣」の気持ちを持って「助け合い」生活を行うことが大切です。



平成 18 年 12 月 20 日 村上文夫

子どもたちへ

純果へ

平成7年1月17日、まだ10か月の赤ちゃんだったのに、もう中学生なんだね。震災のとき、家が大丈夫だったから、私たち家族の命は助かったんだよ。亡くなった6434人の方々の多くは崩れた家や倒れてきた家具の下敷きになったのが原因だったんだ。だから今、うちでは本棚の上には突っぱり棒、下には揺れを吸収するマットを敷いているよね。眠る部屋には倒れてきそうな家具は置かないように。覚えておいてね。災害はいつくるか全くわからない。まずは自分たちの命を守ること。そして守れたら、友だちや近所の人たちと協力して、自分たちにできることをして下さい。

震災の日、1番に職場にたどり着いた人から家に電話がかかってきて「指示するまで自宅で待機して下さい」と言われ、結局その日は何も連絡がなかった。後で聞くと、災害対策本部をつくるためにバタバタして電話するヒマもなかったということだった。私は次の日から3日間、歩いて2時間かけてたるみ区役所まで応援に出かけた。その後、市役所の自分の職場に行き、確か2日後、学園都市にある神戸市立外国語大学で全国から届けられた救援物資を仕分けして避難所に届けるということでも何日間か過ごした。外大の先生、学生さん、被害の少なかった地域の方々や全国のボランティアの方々の協力をいただいて作業は続いた。

今でも、時間の感覚がないまま、ひたすらがんばったこと、命が助かったことの有難さや重みなどを思い出す。本当に今、こうして生きていることを大切に、と伝えたい。

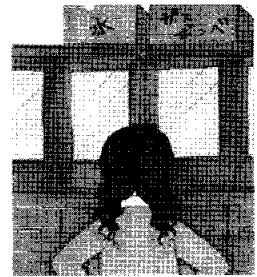


H19年1月17日 M・O

災害への備え

子どもたちへ

「震災の教訓」



大震災の時、あまりにも強いゆれを体験して、地球の大きなエネルギーに驚きました。地震がおさまった頃、考えました。

人間は、どんなに「科学」や「技術」が進歩しても地震を止められません。

でも「備え」は出来ます。知恵や工夫をして「飲水」や「食品」を保存しましょう。足を守るために「寝る場所にスリッパ」を置いておく。物が落ちてくる場所にいた場合は「両手で頭を守る」「座布団」や「物」で頭を守ることを知っておきましょう。

大震災の時、誰でも心が不安定になります。混乱によって気持ちが落ち着きません。生きる大切な「水」も「食事」もすぐ手に入らないし、「電気」も消えてしまうからです。自分の心を落ちつかすために「助かる」と思うことです。大人の人達といっしょに目の前のことを努力していると、たくさんの人達が「助け」に来てくれます。そして、いろんな経験もきっと「学習」することになります。

人間は地球のエネルギーで生かされています。しかし時には地震とかいろんな災害となって私たちを苦しめます。逃れられない地震からは、守ることを考えることが大切です。大切な「人と人の協力」や「助け合い」を「大切」にしましょう。災害の時、大きな力となるのです。

平成 19 年 1 月 28 日 田中久子

このメッセージを^よ読んであなたが^{かん}感じたことを^か書いてみてください。

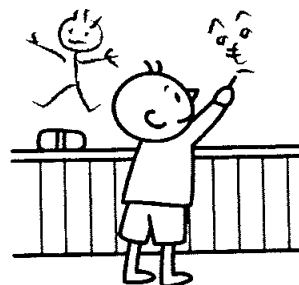
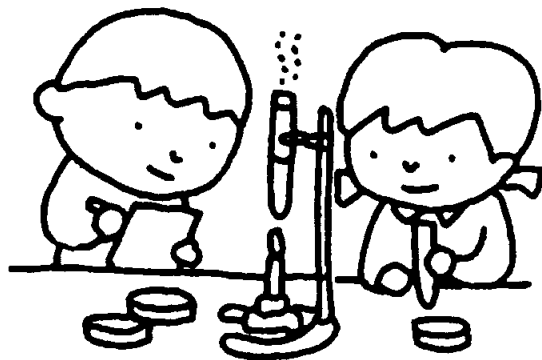
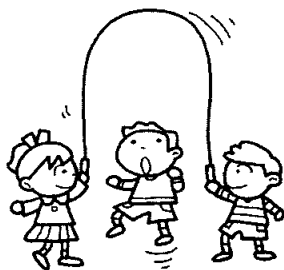
A large rectangular box containing horizontal dashed lines for writing.

こどもたちからの感想文

へいせい ねん どちゆう よ きょうりょくこう
平成17年度中に寄せられたメッセージを協力校となっていた

がっこう とど しょう ちゅうがくせい かんそうぶん
学校にお届けしたところ、小・中学生から感想文をいただきました。

なか つう かんそうぶん しょうかい
その中から、3通の感想文をご紹介します。



阪神淡路大震災から12年

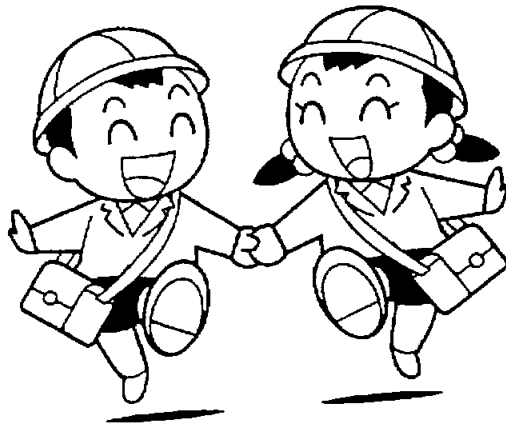
本庄小学校 5年 吉良みづき

わたしは、お母さんにたくさんいろんなことを聞いた。

私が聞いたのは、「阪神淡路大震災」がおこる前は、「助け合い」がうすれていた。ということ。しかしおこった時はみんなで協力し合っているといいです。お母さんやお父さんそして、お兄ちゃんは、たくさんの人にたすけられたといひます。お兄ちゃんは、そのとう時まだ1才で、近くの工事のおじさんが、自分のお昼を毎日くれているといひていました。

私が感じて、思ったことは、「たすけ合い、命をもっと大切に」ということです。私がああの現場にいて、ああのじしんにあっていたら、たすけ合いなどしていなかったと思ひます。だからそのたすけ合いを大切にしたいと思ひます。

命をもらったことを、ありがたく思ひ、1日1日を大切に生きていきたい。



「子どもたちへ」感想

友が丘中学校 3年 朝田麻衣子

私も阪神淡路大震災で、「人の力はすごい」という事を感じました。

私も少しの間だったけど、長田の公民館で集団生活をしたことがありました。公民館には、色んな人が居たし、壁などがなくて大変だったけど、知らない人と協力しあえたので、やっていく事ができました。救援物資では、1人1本当たらないくらいのソーセージをもらった事がありました。私はまだ幼くてがまんというものを知らず、泣いてわがまを言っていて、その少ないソーセージをおばあちゃんにもらった事を今でも覚えています。私は、長田の御蔵小学校のグラウンドで、自衛隊のお風呂にも入りました。抽選に当たって、西神中央の仮設にも入る事ができました。

震災では本当に怖い思いもしたし、辛い思いもした。がまんをしなければいけない時もあった。失ったものは数えきれないくらい多かったけど、大変な状況の中で皆と助け合えた事は、私にとって貴重な体験となりました。これから先、地震が絶対におこらないとは言いきれない。もし地震がおきたなら、私は皆と助け合いたいと思っている。でも、地震がおこるかもしれないという事より先に、「みんなを悲しませる地震が、二度とおこりませんようにっ。」という事を願っていきたいと思う。

「子どもたちへのメッセージ集 2006」の感想

長坂中学校 3年 辰巳麻依

震災があった日、私はまだ2歳で弟はまだ1歳にもなってなくてタンスの目の前でお母さんを真ん中にして寝ていました。

地震があると、お母さんがまっ先に起きて私を起こして、弟をだっこして違う部屋で寝ていたお父さんを必死に呼んだのをよく覚えています。もし、あの時タンスが倒れてきていたら下敷きになっていたと思います。そう思うと、今普通に生活して学校に来れていることがとても幸せに感じます。その後は、姫路のおばさんとおばあちゃんの所に行っていたので、不自由な生活はしなかったそうです。前に、食器などは全部割れてグチャグチャで大変だったなど、聞いたことがあります。地震後のことは全然記憶にないけど、今のような神戸を1からつくってこれたのはすごいと思いました。食料がなくて近くのお店に並んでいたら、泣いていた弟を見て前の人整理券を譲ってくれたそうです。そういう話を聞くと、知らない人でも助け合うことはすごく大切なんだと思いました。

しあわせ運べるように 作詞・作曲 臼井 真



じしんにもまけない つよいきこころをもってなく
ついたこうべを もとのすがたにもどそう ささ



なつかたがたのぶんもまいにちをたいせつに いきていこうさず
えあうこころと あしたへのきぼ



うをむねに ひびきわたればくたちのうたう



まれかわるこうべのまちに とどけたいわたしたちのうたしあ

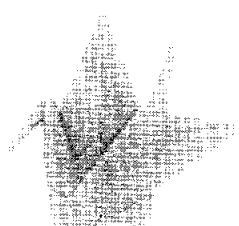


わせはこべるよう に

一、地震にも 負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
支え合う心と 明日への 希望を胸に
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように



二、地震にも 負けない 強い絆をつくり 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
やさしい春の光のような 未来を夢み
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように



さいごに

このメッセージは、阪神・淡路大震災を知らない・よく覚えていない子どもたちに、命の尊さや震災の教訓を語り継ぐために寄せられたものの一部です。

このメッセージが子どもたちの心に届きますよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

子どもたちへのメッセージ運動の概要

「子どもたちに伝えたい、阪神・淡路大震災に関連する経験や思い」をテーマとして、震災のときに生まれた子どもたちが大人になるまで、毎年、メッセージを募集し、伝えつづけていく予定です。

16年度から18年度の取組み

年度	メッセージ 募集期間	応募数(通)	メッセージ展	メッセージ集
16年度	平成16年4月 ～平成17年1月	557	平成17年3月17日 ～3月30日	2005
17年度	平成17年2月 ～平成18年1月	256	平成18年3月17日 ～3月30日	2006
18年度	平成18年2月 ～平成19年1月	222	平成19年3月17日 ～3月26日	2007

〈平成19年度〉

前年度同様に、メッセージを募集しています。(平成20年1月31日締切)

詳細は、神戸市のホームページをご覧ください。

ホームページ検索

子どもたちへのメッセージ運動

検索

お問い合わせ先：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 322-5234・5

《子どもたちへのメッセージ運動の活動(募集、メッセージ集編纂等)にご協力いただいた方々》

(五十音順、敬称略)

クリスタル・ベル、神戸市PTA協議会、神戸市立幼稚園PTA連合会、神戸市立小学校PTA連合会、神戸市立中学校PTA連合会、神戸市立高等学校PTA連合会、神戸市立盲・養護学校PTA連合会、神戸学院大学地域研究センター、神戸市混声合唱団、神戸市老人クラブ連合会、神戸デザイナー学院、神戸ヤングクリエイティブクラブ、サークル 紙ふうせん、大日通周辺地区まちづくりを考える会、日本赤十字社兵庫県支部及び声の図書奉仕団

《これまで協力校となっていた学校》

池田小学校、板宿小学校、榎野台小学校、春日野小学校、塩屋小学校、本山第二小学校、鷹取中学校、友が丘中学校、蒼合中学校、兵庫県立舞子高等学校

神戸市の被災状況等

震災は、多くの命を奪うとともに、都市基盤や建築物に甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。また、復旧の長期化に伴い、産業、都市機能、生活などに様々な影響を及ぼしている。

<p>(1) 市民生活への被害</p> <p>① 多大な犠牲者</p> <ul style="list-style-type: none">・死亡者 4,571人 (H7.12.22)・不明 2人・負傷者14,678人 (H2.1.11)・高齢者(60歳以上)が死亡者の約59%*・家屋倒壊による死者多数(窒息・圧死が全体の約70%*) <p>※ 高齢者、家屋倒壊による死者の割合は、平成17年12月22日現在(死者4,571人)での割合 (ただし、窒息・圧死の割合は直接死3,895人での割合)</p> <p>② 避難</p> <ul style="list-style-type: none">・ピーク時：箇所数599箇所 (H7.1.26) 避難人数236,899人 (H7.1.24) 避難所就寝者数222,127人(H7.1.18) <p>③ 公共施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none">・市役所、病院等の重要公共施設の破損、倒壊 <p>④ 学校教育・社会教育・文化施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none">・学校園の約85%が被災・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊・酒蔵、異人館等の破損、倒壊 <p>(2) 都市機能の被害</p> <p>① 建築物、構造物の被害</p> <ul style="list-style-type: none">・全壊67,421棟、半壊55,145棟 (H7.12.22現在) <p>② 火災による焼損(確定値)</p> <ul style="list-style-type: none">・全焼6,965棟、半焼80棟、部分焼270棟、ぼや71棟・延べ焼損面積819,108㎡・火災件数175件(震災とほぼ同時に54件発生) <p>③ 交通ネットワークの寸断</p> <ul style="list-style-type: none">・阪神高速道路3号神戸線、同5号湾岸線等の倒壊・陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路不通・鉄道の寸断・海上都市へのアクセスの寸断 <p>④ 港湾施設等の被害</p> <ul style="list-style-type: none">・コンテナパース、岸壁等がほとんど全て使用不能・港湾幹線道路の寸断 <p>⑤ 埋立地の液状化</p> <ul style="list-style-type: none">・東部2～4工区、ポートアイランド等で液状化 <p>⑥ ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none">・電気 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 7日間)・電話 約25%停止 (応急復旧に要した期間 15日間)・水道 市内ほぼ全域停止 (応急復旧に要した期間 91日間)・工業用水道 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 84日間)・ガス 約80%停止 (応急復旧に要した期間 85日間)・下水道 管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下(2/7箇所)及び機能停止(1/7箇所) (応急復旧に要した期間 135日間)・クリーンセンター 全クリーンセンターの運転停止 (応急復旧に要した期間 35日間)	<p>⑦ 公園</p> <ul style="list-style-type: none">・1/3の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害 <p>⑧ 河川</p> <ul style="list-style-type: none">・二級河川 117箇所破損・準用・普通河川 27箇所破損 <p>⑨ 治山・砂防</p> <ul style="list-style-type: none">・緊急復旧を要する箇所 68箇所 <p>⑩ 社会・産業面の資本ストック全体の損害額(推計値)</p> <ul style="list-style-type: none">・約6兆9千億円 <p>(3) 神戸産業の被害</p> <p>① 基幹事業所及び製造大手企業</p> <ul style="list-style-type: none">・本社等中枢建築物の倒壊・生産ラインの停止 <p>② 中小企業・地場産業</p> <ul style="list-style-type: none">・ケミカルシューズ 約80%が全半壊または全半焼・清酒造 50%以上の企業が全半壊 <p>③ 市場・商店街</p> <ul style="list-style-type: none">・旧市街地の商店街の約1/3、市場の約半数が甚大な被害 <p>④ 観光・コンベンション施設</p> <ul style="list-style-type: none">・観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害 <p>⑤ 農漁業施設</p> <ul style="list-style-type: none">・漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害 <p>(4) その他</p> <p>上記の直接的被害にとどまらず、避難所生活に伴う精神的疲労や子ども・高齢者・障害者等への心理的影響、学校等教育機能の低下、ライフラインの復旧の遅れや交通渋滞などによる都市機能の低下、雇用の不安定化など、市民の生活に対して様々な面で、震災が影響を及ぼすこととなった。また、産業面においても、企業の市外への移転や被災による生産量の低下、港湾施設の被害に伴うコンテナ貨物の他港へのシフト、高速道路の寸断や復旧工事による交通容量の不足等により、神戸のみならず、日本経済へ深刻な影響を及ぼすこととなった。さらに、大量の災害廃棄物処理や、これに伴う環境への影響など、震災がもたらした被害は、広範囲で多方面にわたる深刻なものとなった。</p> <p>(5) 旧避難所等・仮設住宅・災害廃棄物処理について</p> <p>① 旧避難所 避難所は平成7年8月20日で終了し、待機所を平成9年3月31日まで運営。</p> <p>② 仮設住宅 ○建設戸数 32,346戸(市内29,178戸、市外3,168戸) ○撤去状況 全敷地原状復旧済。</p> <p>③ 災害廃棄物処理(平成10年3月末最終) ○実績 解体済 61,392棟(100%)</p>
---	--

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

「子どもたちへのメッセージ運動」の取り組みをご紹介します

子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐため、平成16年4月に運動を始めました。
平成19年度までに1,035通のメッセージが、寄せられました。

2月～翌年1月
メッセージを募集



3月中旬～下旬
市民ギャラリー展示



9月～11月
子どもたちに届けます



発行：平成19年11月

発行者：神戸市・神戸市教育委員会

編集：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話078-322-5234・5

協力：神戸市教育委員会指導部人権教育課 電話078-322-5807

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

広報印刷物登録平成19年度第165号A-1